

雨風に耐えて鍛えて幸せの花を育てん

「主体的・対話的で深い学び」を通して



PTA成人教育委員会主催の教育講演会「命の授業」 2020年1月11日(土)14:10~15:10

講師 玉置 崇 氏 (岐阜聖徳学園大学 教育学部 教授)

講師 向 宇希 氏 (介護福祉士、上級動物介在福祉など)



玉置崇氏と向宇希氏へのお礼の言葉、花束贈呈



感謝の気持ちを伝える連合合唱で練習した全校合唱「ふるさと」

玉置崇氏と向宇希氏の「命の授業」は、これからの自分の人生をどう生きていったらよいかを真剣に考えるきっかけとなる講演会でした。「病院は、つまらない」という体験から、自分の仕事につなげていったことには、マイナスをプラスに変える発想と努力を学びました。「今、当たり前になっていることは、当たり前なことではない。生きていることも当たり前でない。人生は今だけではない。将来を考えて生きていきましょう」と語りかける言葉には、向さんの体験から学んだ生き方が込められていました。

令和元年度額田中学校 第3回学校評議員会 1月11日(土)

令和元年度額田中学校学校評議員の皆様

- ・鈴木 勝彦 様 (額田地区総代会会長)
- ・柴田 憲司 様 (額田地区民生児童委員会副会長)
- ・戸田 恵信 様 (元 PTA 会長)
- ・山口 弘吉 様 (あいち三河農協理事)
- ・加藤 文隆 様 (令和元年度 PTA 会長)



5名の学校評議員の皆様からのご意見(授業参観、教育講演会の後、校長室で学校評議員会)

- ・11月の教育診断アンケート結果を見ると、「額田中の生徒の挨拶がよくできているか」に「できている」と自信をもって答えていることがわかります。実際、地域で額中生と出会うと元気よく挨拶をしてくれます。額中生が健やかに育っていることが伺えて、地域住民としてはうれしいことです。安心して額田中学校に任せることができます。
- ・「グループで課題に取り組む授業は分かりやすいか」に対して、91%の生徒が「わかりやすい」と答えています。本日の授業参観でもグループで学習に意欲的に取り組んでいました。全体では意見が言えない生徒も、グループなら話せる生徒もいます。そういう意味で、授業に参加しやすい学習形態だと感じます。
- ・アンケート結果では、額田中学校の教育活動に対して、保護者も生徒も肯定的にとらえています。スムーズな学校運営がなされていると言えます。さらに自慢できる額田中学校になるために、アンケートのマイナスの部分に着目して改善していくことが必要だと思います。
- ・授業参観をして、グループで主体的に自分の意見を話している姿を見て、次にどんな話し合いになるのか楽しみになるくらいでした。
- ・グループで自分の考えをまとめて記述している場面の授業であったので、生徒がどんなことを書いて、グループ内で発言するのか聞きたかったです。
- ・「命の授業」は、ただ聞いているだけの講演会ではなく、生徒参加型でいろいろなことを考えながら、自分の考えを語る授業でした。向宇希(むかい ひろき)さんが、小児がんで苦労したことの話の中で、いじめられても学校を休まなかった理由は、「親が人に迷惑をかけていないのなら、学校を休んではいけない」と言われたことでした。親の子を思う心の価値に感動しました。「当たり前なことは、本当は当たり前ではない。今生きていること自体が当たり前ではない。」生きていく上で大切なことを学びました。いろいろと考えさせられる講演会でした。



1月11日(土)7:30~7:50
会場準備で長机、椅子の準備をした3年生に感謝



1月12日(日)7:40~8:00
片付けをしたバレエ部女、テニス部女、弓道部男女に感謝

二世代会で「豊かな心」を育む1年生 1月11日(土)午前



1月11日(土)の午前中、1年生は二世代会を食堂で行いました。1年生の二世代会の校長挨拶で、「額田中学校の2020年の漢字は「幸」です。「辛いに1本線を加えると幸せになります。CRSを加えると幸せになります。人生の大先輩が、二世代会に来てよかったと言ってもらえるように、心を遣って幸せの花を咲かせてください。相手の目線で話しかけて、相手を幸せにする挨拶、言葉がけをしてください」と話しました。「額田ふるさとかるた」を行っている時、笑顔の花がたくさん咲いていました。来校された方を見送る時に、「本当に楽しかった。来年も来たい」と言って帰られました。1年生が心を遣った言動ができた証拠だと思いました。

1月11日(土)の午後、1年と3年は授業参観、2年生はスキー学習説明会を行いました。2年生のスキー学習説明会の最後の校長挨拶で、「スキー学習を通して人間的に成長し、幸せの花を咲かせましょう。今から健康管理に気を付けてください。」と話しました。

3年生のスーパーサイエンススクール事業「放射線とは」 1月9日(木)

佐合 穰 先生 (中部原子力懇談会技術部次長) が「霧箱」実験の説明
町田 玲子 先生 (中部原子力懇談会事業部次長) が「霧箱」実験の準備
杉田 忍 先生 (中部電力株式会社 岡崎支店) が「霧箱」実験の準備・広報



佐合先生の実験方法の説明



町田先生、杉田さんが「霧箱セット」の準備



佐合先生が、放射線についての基礎的な知識を教えてくださいました。放射線は、人間の五感(視覚、触覚、聴覚・味覚・嗅覚)で感じる事ができません。放射線の良い点は、安全対策をして産業、研究、医療に利用できることです。悪い点は、たくさんの放射線を受けると病気になることがあることです。人工の放射線(X線)を発見したのは、レントゲン博士(1901年ノーベル物理学賞を受賞)です。自然の放射線、放射能を発見したのは、ベクレル博士(1896年)です。放射線とは、電磁波または粒子線のうち、直接または間接に空気を電離する能力をもつもので、アルファ線、ベータ線、ガンマ線等があります。放射能とは、放射線を放出する性質または能力のことです。放射性物質とは、放射能をもっている物質で、ウラン、ラジウム、カリウム等があります。人類は、大昔から自然の放射線を受けながら生きてきました。そして、今も自然の放射線を受けながら生きています。

佐合先生が、普通は目に見えない身の回りにある放射線を「霧箱」と呼ばれる実験器具を作って放射線の飛跡を観察する方法を説明してくださいました。町田先生と杉田さんが、「霧箱」実験の準備をしてくださいました。

1月9日(木)、3時限に3年1組、4時限に3年2組が、「放射線の基礎」の授業を受けました。部屋を暗くして懐中電灯で照らすと、普段は目に見えない放射線の飛跡を見ることができました。スーパーサイエンススクールの事業で、放射線を見ることができた額中生は、幸せだと思いました。